



「ここの高台に家を建てれば、洪水が起きてても安心ですね」。地図を分析することで、災害対策のヒントが見えてくる



図版の上で、定規や方位磁石などを使って測量。90年代に研修で教えていた技術だ

国づくりの基盤となる地図。国土地理院が研修員たちと積み上げてきた歴史が、また新たな時代をつくり上げていく。

そこで、日本国内で測量や地図作成の技術を伝える研修を実施しているのが国土地理院だ。その歴史はなんと50年以上。1959年、カンボジアからの研修員受け入れを皮切りに、他のアジア諸国やアフリカ、東ヨーロッパの国々など対象を広げてきた。

### 時代に即した 技術を伝える

「この50年間、研修の内容は大きく変わってきました」と話す坂部課長。かつては図版の上で測量する方法を中心に教えていたが、今では人工衛星を使った測量法が

「地図は単に場所を示すだけのツールではありません。道路や鉄道、港をどこに造ればいいのか、店や病院をどこに建てれば効果的かなどを考えるのに必要不可欠です」。そう話すのは、国土地理院企画部国際課の坂部真一課長。地図は、まさに国づくりの基盤なのだ。日本では、江戸時代に伊能忠敬らが実測による全国の地図を完成させたのが始まり。明治時代以降は、主に国主導で地図を作成、更

新してきた。しかし、開発途上国では測量技術や機材が十分になく、何十年前の地図を使っていたり、そもそも地図がない地域すらある。

つくば  
from TSUKUBA

## 地図が示す未来

私たちの生活の道しるべとなっている地図。しかし世界には、その地図の情報が十分でない国もある。そこで半世紀にわたり、開発途上国に地図作成の技術指導をしているのが、国土交通省国土地理院だ。

研修の一環として、前方にあるものさしを見ながら測量を行う研修員



人工衛星からの電波を捉える装置の使い方を学ぶ。10秒ほどでその場所を特定できる

主。2000年以降は、環境問題への意識の高まりを受けて、森林面積などを把握できる地図を作るための研修も実施するようになった。また、研修員たちの学びたい内容も、時代や国によってさまざまだ。「研修後には必ず、どの講義が良かったか、何をもっと学びたかったかなどを聞くようにしています」と研修の企画を担当する国際課のマービット京湖さん。最近では、測量技術に加え、どのような体制で地図作成に取り組んでいるのかを学びたいという要望が増えてきた。そこで研修の中に、国土地理院の管理職が各部署での課



91年の研修の一コマ。帰国後も研修員たちとの交流は続いている